

元号・改元、そして新元号「令和」の意味について

日時 平成31年4月23日（火）

午後1時30分～午後3時（午後1時開場）

会場 足利大学 本城キャンパス本館1階 交流センター

講師 大沼 美雄（足利大学 講師）

萃^ニ于^ニ帥^ニ老^ニ之^ニ宅^ニ。
此序發端ハ、義之カ蘭亭記ニ、永和九年歲在癸丑、暮春之初、會^ニ于^ニ會稽山陰蘭亭^ニ、修^ニ禊事^ニ也。
トカケルニ效^ニヘル歟。篇中ニ、彼記ノ詞モ見エタリ云々といはれたり。（蘭園略解に、此序は健良
の作れるならんと契沖い
へり。さもあるべし。）

于^ニ時^ニ初^ニ春^ニ令^ニ月^ニ。
儀禮士冠禮に、始加^ニ冠^ニ、日^ニ令^ニ月^ニ吉日始加^ニ元服^ニ云々。後漢書明帝紀に、
詔^ニ驃騎將軍三公^ニ曰、今^ニ令^ニ月^ニ吉日、宗^ニ祀^ニ光武皇帝於明堂^ニ、以^ニ配^ニ於^ニ五帝^ニ。
云々などありて、廣韻に、令、善
也とある如く、善月といふなり。

氣淑風和
文選歸田賦に、仲春令月、時和氣清云々。蘭亭記に、是日也天
朗氣清、惠風和暢云々などありて、説文に、淑、清湛也とあり。

梅披^ニ鏡^ニ前^ニ之^ニ粉^ニ。
梅のうはしく咲たるを、美人の鏡の前にて紅粉をよそはひたるにたと
へたり。宋書^ニに、壽陽公主、人日臥^ニ含章殿^ニ、簾下梅花落^ニ公主額^ニ。

岸本由豆流の『万葉集攷証』巻第五（万葉集叢書本、75ページより）

「平成」が終わります。約30年ぶりに改元が行われます。
「令和」という新元号も発表されました。そもそも元号とは何
でしょうか。いつ始まったのでしょうか。また、過去にはどの
ような元号があったのでしょうか。また、過去の各元号の出典
はそれぞれ何であり、それらの考案者は誰だったのでしょうか。
また、改元にはどのような種類があり、どのようなタイミング
で行われて来たのでしょうか。なぜ「一年」とは言わずに「元
年」と言うのでしょうか。こういったことについて鎌倉時代の
学者、高辻長成（1205年～1281年）の『元秘抄』、戦国時代の
学者、^{ひがしほうじょう}東坊城惟房（1460年～1529年）の『元号字抄』、江戸
時代の学者、^{かいげらよしふる}貝原好古（1664年～1700年）の『大和事始』附録
の国朝年号譜、森鷗外の「元号考」などといった基本史料を使
いながら一つ一つ明らかにしていきます。

また、「令和」の出典となった『万葉集』巻五の当該箇所につ
いて江戸時代の学者、^{けいちゆう}契沖（1640年～1701年）の『万葉代匠
記』や江戸時代の学者、^{ゆずる}岸本由豆流（1789年～1846年）の『万
葉集攷証』（文政11年・1828年）などを使って読み解き、新元
号の意味を明らかにしていきます。

定員：50名（先着順）

参加希望の方は、足利大学法人本部（電話 0284-62-9981）へお電話で
お申し込みください。 受付時間：平日午前9時～午後5時

参加費：無 料

主催：足利大学 後援：足利市、足利市教育委員会

足利大学教養講座のご紹介

「真理は人を自由にする」という考え方のもと、足利大学では高等教育機関の教養教育を広く市民の皆様を提供
することで、地域に貢献する知の拠点づくりを目指しています。人文科学、社会科学、自然科学、芸術など、リ
ベラルアーツをテーマとして、月1回程度の講座開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先： 足利大学 法人本部 ☎0284 (62) 9981

学び舎のまちから未来を創る

誕生、足利大学